

平成 21年 6月 20日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007年度～2008年度
 課題番号：19720036
 研究課題名（和文）田能村竹田著『竹田荘師友画録』収録画人の美術資料収集とその分析—九州地域を中心に
 研究課題名（英文）Investigation and Analysis of Art Materials of Painters Recorded in “Chikuden-so Shiyu Garoku (Records of Chikuden’s Teachers and Friends)” Written by Tanomura Chikuden -Centering on Kyushu District
 研究代表者
 宗像晋作（MUNAKATA SHINSAKU）
 財団法人出光美術館 学芸員
 研究者番号：70415933

研究成果の概要：

本研究は、文人画家・田能村竹田の著書『竹田荘師友画録』に収録されている文人（画人）たちの絵画作品を主とした美術資料データを収集することを一つの大きな目的とした。本書には、竹田が親交した多くの魅力的な文人たちが収録されるが、現在に至っては無名となった人物も多く、その書画の実態は明確には把握されていない。従って本研究は、本書に収録される九州・山口地域の文人たちの美術資料データベースを作成し、田能村竹田を取り巻いていた当時の絵画情勢を具体的に把握していくことを少しでも進めようとするものである。

両年度とも各地の研究者、学芸員等の協力を得て、調査対象画人の作品の所在情報を確認し、ほぼ計画通りに現地調査を進めた。実際の調査では、作品全図と詳細な部分図をデジタルカメラで撮影し、さらに実測による法量データを得た。調査後に、汎用PCソフトを用いて画像のレタッチ作業、データベース編集作業をおこなった。2年間の研究期間において、総計178件の絵画を主とした美術資料データを現地調査により収集した。調査作品には、未公開の個人所蔵作品や、公立美術館に所蔵されていても刊行物などに未掲載の作品が大部分であったため、そうした意味からも貴重なデータを収集することができた。

調査対象画人の中で、田能村竹田と特に深い交友をもった僧・雲華について、中津の正行寺をはじめとした各所蔵機関で、まとまった数を調査することができたため、『出光美術館研究紀要』14号において、年代順に調査作品を紹介するとともに、竹田との交友関係について整理し、調査成果を論文として公表した。調査対象画人のうち、未だその画績が確認できないものもあるが、豊前の曾木墨荘、中津の田中田信、下関の広江殿峰、秋水父子など、小規模ながら各地域で顕彰され、大切にされている人物も意外に多いことがわかった。また日田の森五石、春樹父子らの作品は、当時流行した沈南蘋の画風に学んだものが多く、竹田が青年期に制作した南蘋風作品のイメージソースは、日田の森家の人々との交友の中で得られた可能性が大きいことも実作品を通して把握できた。さらに調査においては、『竹田荘師友画録』中の竹田の評言と合致する作品が確認できたケースもあり、竹田が評価した同時代絵画の表現を具体的に認識することができた。また調査各地では、所在の明確でなかった竹田作品を確認することもあり、竹田研究に資する重要な作品については、研究成果の一部として今後、論文、学会発表にて公表していきたい。

以上のように、本研究によって『竹田荘師友画録』に収録される文人たちの多くの美術資料が把握される結果となり、田能村竹田に関連する基礎的研究は確実に一歩前進したものと考えられる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	210,000	2,110,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：田能村竹田、文人画、南画、竹田荘師友画録

1. 研究開始当初の背景

本研究でとりあげる、江戸時代後期の文人画家・田能村竹田の著書『竹田荘師友画録』には、竹田が親交した日本各地の師友105名の事績が収録されている。収録人物には、江戸後期の著名文人も多く含まれており、作家研究における重要な基礎資料となっている。著者の竹田は、師友らに対する深い理解のもと、各人物の人物、芸術的感性、その生き様を述べ、彼らの詩書画についての感想を書き留めている。この著書によって、田能村竹田周辺の多くの魅力的な人物の存在と、その書画情報を知ることができる。しかし研究開始当初の段階では、これらの人物たちの多くについては、その書画の実態、文献資料などが明確に把握されていないのが実情であった。

2. 研究の目的

『竹田荘師友画録』には日本各地（九州、京坂、中国、四国など）の人物が収録されるが、竹田は豊後国岡藩に終生居宅を構えたこともあり、九州の人物が最も多く収録（45名）されている。本研究期間の2年間では、全ての人物についての調査は、時間的に困難であるため、本研究では、九州、山口の人物に限定して調査を進め、本研究の足がかりを作る。九州、山口の人物は、今となっては全く無名のものも多く、美術史研究の対象から逸脱した人物が多いが、彼らは竹田と密に交友し、各地の絵画情勢を背景として、様々な書画を制作した人々である。本研究では、こういった人物（画家）たちの美術資料、史資料の実地調査を行い、その調査データは汎用データベースソフトを用いて整理し、それをもとに九州各地における江戸後期の美術状況をより明確に把握し、あわせて田能村竹田が様々な影響を受けた、また影響を与えた文人たちとの交友の実態、画風の影響関係などを検討することで、竹田を中心とした九州の文人画史（南画史）の展開に関わる具体的な考察を、調査データをもとに少しでも進めることを目的としている。

3. 研究の方法

具体的な研究方法としては、①九州各地の研究者、学芸員等に情報を提供してもらいながら作品の所在を把握する。②作品の実地調査に際しては、デジタルカメラによる作品の全図、部分図の撮影、実測による法量データの収集をおこなう。③調査データを汎用データベースソフトによって整理するとともに、各地の美術状況、竹田との交友の実態を分析する。という大きく3つの段階を含む方法によって研究を遂行した。

4. 研究成果

(1) 2年間の研究期間において、『竹田荘師友画録』に収録されている文人（画人）たちの絵画作品を主とした美術資料データを、総計178件収集することができた。

実地調査によって得られたこれらの作品データは、未公開の個人所蔵作品や、公立美術館に所蔵されていても刊行物などに未掲載の作品が大部分であったため、そうした意味からも貴重なデータを収集することができた。

(2) 調査対象画人の中で、頼山陽、田能村竹田らと特に深い交友をもった僧・雲華について、2007年度調査することができた中津正行寺と中津市が所蔵する作品、また2008年度調査した出光美術館、大分県立芸術会館の所蔵する作品と併せてまとまった数を把握することができた。しかも雲華の若年期から晩年期の作品まで、年代的に幅のある作品群であったことから、『出光美術館研究紀要』14号において、年代順に調査作品を紹介するとともに、山陽、竹田らとの交友関係について整理し、調査の成果として執筆・公表した。

(3) 調査対象画人のうち、未だその画績が確認できないものもあるが、豊前の曾木墨荘、中津の田中田信、下関の広江殿峰、秋水父子など、小規模ながら各地域で顕彰され、大切にされている人物も意外に多いことがわかった。また日田の森五石、春樹父子らの作品は、当時流行した沈南蘋の画風に学んだものが多く、竹田が青年期に制作した南蘋風作品のイメージソースは、日田の森家の人々との交友の中で得られた可能性が大きいことも実作品を通して把握できた。さらに調査においては、『竹田荘師友画録』中の竹田の評言と合致する作品が確認できたケースもあり、竹田が評価した同時代絵画の表現を具体的に認識することができた。また調査各地では、所在の明確でなかった竹田作品を確認することもあり、竹田研究に資する重要な作品については、研究成果の一部として今後、論文、学会発表にて公表していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

宗像晋作「末弘雲華の画業について―蘭の専一画家としての側面を中心に」(『出光美術館研究紀要』14号、51頁～72頁、2009年、査読無し)

[学会発表] (計1件)

宗像晋作「田能村竹田の山水画における「黄鶴山樵法」による作画について」(九州藝術学会、2009年7月4日開催、於福岡市美術館、6月20日時点で採択、発表確定)

[図書] (計1件)

[産業財産権]

○出願状況 (計1件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宗像晋作 (MUNAKATA SHINSAKU)
研究者番号：70415933